

独立行政法人日本芸術文化振興会の令和元年度業務実績に関する評価結果を踏まえた  
業務運営の改善等への反映状況

| 評価項目  | 令和元年度業務実績評価における主要な指摘等   | 左の指摘等を踏まえた令和2年度の改善の状況  |
|---|---|--|
| <p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> | <p>・劇場を取り巻く新たな環境に対応するため、デジタルコンテンツの重要性を鑑み、その整備及び積極的活用に向けた取組を期待したい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・振興会ホームページ内に動画配信サイト「おうちでカンゲキ!!」（9月まで）・「国立オンライン劇場▶▶つながる伝統芸能◀◀」（10月以降）、英語版動画配信サイト「National Theatre Online」を、新国立劇場ホームページ内に動画配信サイト「巣ごもりシアター」を、それぞれ新規開設した。</li> <li>・振興会、新国立劇場及び国立劇場おきなわのホームページやYouTubeなどにおいて、公演記録映像、展示や養成事業の紹介映像などの動画配信を実施した。特に、公演を中止したものの記録映像を作成・配信した国立劇場令和2年3月歌舞伎公演の再生回数は40万回以上、無観客ライブ配信を実施した新国立劇場「ニューイヤー・バレエ」の再生回数は15万回以上の実績を上げた。</li> <li>・収益力強化を図るため、新規作成した歌舞伎入門動画や伝統芸能（歌舞伎・文楽等）・現代舞台芸術（バレエ等）の公演映像等の有料配信を実施した。</li> <li>・主に海外向けの配信事業として、「National Theatre Online」において、公演記録映像を編集した英語版ダイジェスト動画の無料配信を実施した。</li> <li>・公演を中止した鑑賞教室などを申し込んでいた学校団体に対し、次年度以降の観劇利用につなげるために、芸術鑑賞会の代替として歌舞伎入門動画、公演記録映像などの配信動画を案内した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症収束後の新たな環境を見据えた国内外の観光需要喚起に向けた取組として、日本博公式サイトをリニューアルし、動画やVRなどのデジタルコンテンツを配信する「デジタルギャラリー」や「YouTube日本博チャンネル」を新規開設した。</li> <li>・日本博の広報及びプロモーションのため、日本博事業の採択・認証団体と協力・調整しながら、PR動画などを作成し、日本博公式サイト（デジタルギャラリー）、YouTube日本博チャンネルやSNS（Facebook、Instagram、Twitter）などで、国内外に向けた情報発信を積極的に実施した。例えば、日本博特別公演「日本の音と声と舞」の収録映像を活用した海外向けデジタル広告配信では、YouTube・Instagram（英仏韓）、Twitter（英）、Weibo（中）で配信し、合計で約1,295万回のインプレッション（広告表示）、311万回の動画再生数を獲得した。</li> <li>・中止又は延期した日本博のプロジェクトについては、採択団体と相談・調整を行い、可能な範囲で多言語映像コンテンツの制作・配信を実施した。</li> <li>・Adobe Flash Player（12月でサポート終了）を使用していた文化デジタルライブラリーのコンテンツについて、継続して視聴できるよう改修を行い、再公開した。</li> <li>・文化デジタルライブラリーにおける伝統芸能を紹介する基礎的なコンテンツとして、多言語化とともに学校教育におけるオンライン授業等への活用を目的とした「人形浄瑠璃文楽」のリニューアル版を制作し、舞台芸術教材の充実を図った。</li> </ul> |